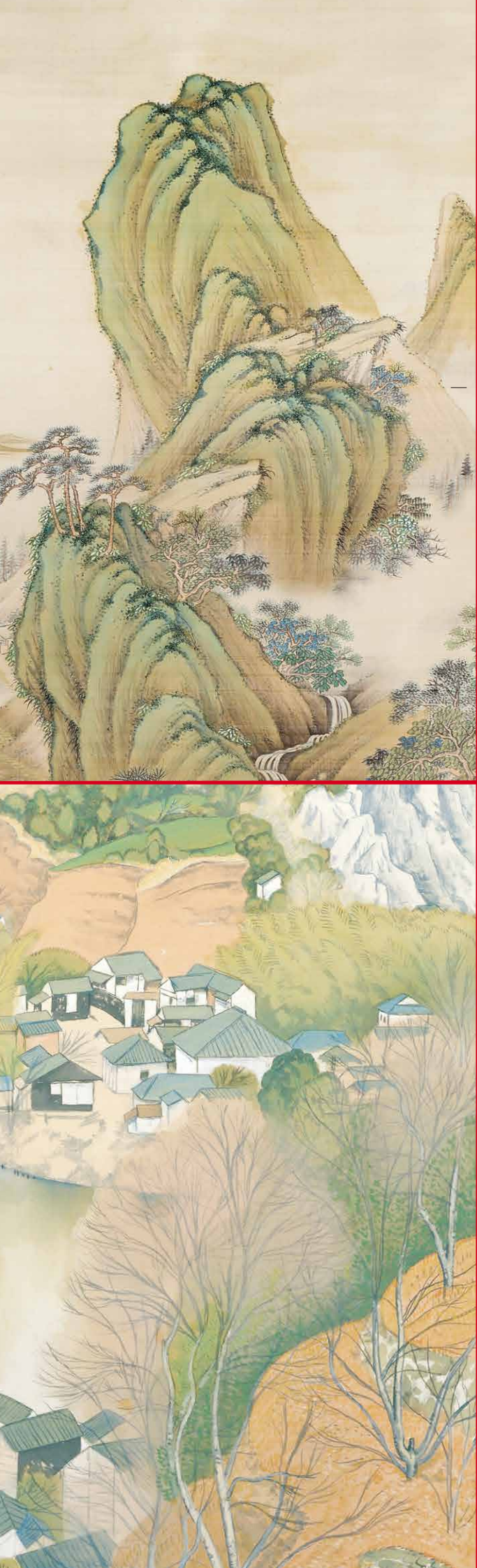




〔第1部〕

近代の南画、
関西にあり

和歌山県立近代美術館
The Museum of Modern Art, Wakayama
開館時間 9時30分～17時（入場は16時30分まで）

〔第2部〕

近代の南画家、
和歌山にあり

田辺市立美術館
Tanabe City Museum of Art
開館時間 10時～17時（入場は16時30分まで）

〔第3部〕

南画の風景、
和歌山にあり

熊野古道なかへち美術館
（田辺市立美術館分館）
Kumanokodo Nakahechi Museum of Art
開館時間 10時～17時（入場は16時30分まで）

Modern Nanga in Wakayama and Kansai

｜関連事業｜

詳細や変更は、各館のウェブサイト等でお知らせします。

近代南画をめぐるトークイベント

講師 | 橋爪節也（大阪大学名誉教授）、
池田方彩（公益財団法人天門美術館館長）
11月4日〔月・休〕14時～16時（予定）
会場 | 和歌山県立近代美術館2階ホール
定員 | 80名程度 ●聴講無料、13時30分開場、先着順

ワークショップ（実施・運営 | NPO和歌山芸術文化支援協会〔wacss〕）

「粘土で山水画をつくろう わかやま編」
講師 | 松平莉奈（画家）
10月19日〔土〕13時～15時（予定）
会場 | 和歌山県立近代美術館
対象 | 小学生以上
●小学校低学年は保護者の同伴が必要です
定員 | 15名程度 ●要事前申込。定員になり次第、締め切ります
参加費 | 500円 ●保険および材料費として
●9月10日〔火〕10時から電話（和歌山県立近代美術館：073-436-8690）及び
ウェブサイトの申込フォームにて予約の受付を開始します。

「粘土で山水画をつくろう なかへち編」

講師 | 松平莉奈（画家）
10月20日〔日〕10時～12時（予定）
会場 | 熊野古道なかへち美術館
対象 | 小学生以上
●小学校低学年は保護者の同伴が必要です
定員 | 10名程度 ●要事前申込。定員になり次第、締め切ります
参加費 | 500円 ●保険および材料費として
●9月10日〔火〕10時から電話（田辺市立美術館：0739-24-3770）及び
申込フォーム（<https://logoform.jp/f/B8G2d>）にて予約の受付を開始します。

スライドレクチャー（学芸員による展示解説）

10月26日〔土〕14時～15時30分
会場 | 和歌山県立近代美術館2階ホール
定員 | 80名程度
●聴講無料、13時30分開場、先着順

フロアレクチャー（学芸員による展示解説）

和歌山県立近代美術館
10月13日〔日〕、11月10日〔日〕、11月24日〔日〕
各日14時～15時
会場 | 1階展示室A ●要観覧券
田辺市立美術館
10月12日〔土〕、11月9日〔土〕
各日14時～15時
会場 | 展示室 ●要観覧券
熊野古道なかへち美術館
10月14日〔月・祝〕、11月23日〔土・祝〕
各日14時～15時
会場 | 展示室 ●要観覧券

こども美術館部（小学生を対象とした作品鑑賞会）

「なんかのスイッチ、ここにあり」

10月26日〔土〕、27日〔日〕各日11時～12時（予定）
会場 | 和歌山県立近代美術館1階展示室A
定員 | 各6名程度
●両日同内容
●要事前申込。10月12日〔土〕9時30分より同館
ウェブサイトにて受付を開始

きのくに文化月間
2024年10月10日（水）～11月10日（日）

聖地
リゾート

和歌山県立近代美術館

The Museum of Modern Art, Wakayama
〒640-8137 和歌山市吹上1-4-14
tel. 073-436-8690 fax. 073-436-1337
www.momaw.jp

観覧料 | 一般800（640）円、大学生500（400）円（ ）内は20名以上の団体料金
・高校生以下、65歳以上の方、障害者、県内に在学中の外国人留学生は無料
・10月26日〔土〕、11月23日〔土・祝〕は、「紀陽文化財団の日」〔毎月第4土曜日〕により大学生無料
・10月6日〔日〕は無料観覧日
・11月22日〔金〕は、「和歌山県ふるさと誕生日」により無料

交通案内 |
○JR和歌山駅から：バスで約10分、「県庁前」下車、徒歩2分 ○南海電鉄和歌山市駅から：徒歩15分／バスで約10分、「県庁前」下車、徒歩2分 ○南海電鉄なんば駅から和歌山市駅まで特急で約1時間 ○JR新大阪駅からJR和歌山駅まで特急で約1時間 ○駐車場：2時間まで無料、以後30分ごとに100円

田辺市立美術館

Tanabe City Museum of Art
〒646-0015 和歌山県田辺市たきない町24-43
tel. 0739-24-3770 fax. 0739-24-3771
www.city.tanabe.lg.jp/bijutsukan/

観覧料 | 600（480）円（ ）内は20名以上の団体料金
・学生及び18歳未満は無料
・11月16日〔土〕、11月17日〔日〕は、「関西文化の日」により無料

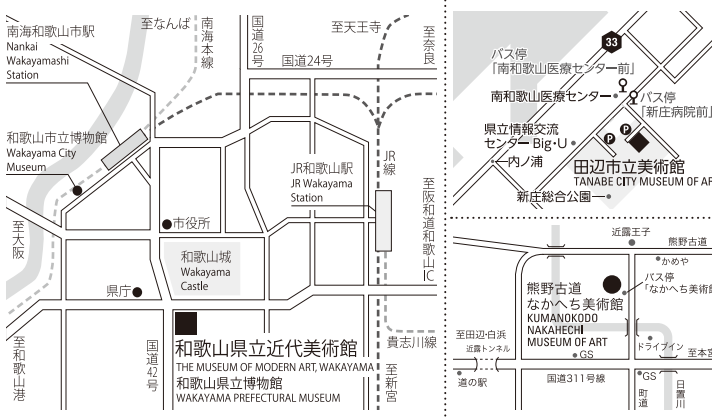
交通案内 |
○JR紀伊田辺駅、JR白浜駅から：明光バスで約30分、「南和歌山医療センター前」または「新庄病院前」下車、徒歩5分 ○駐車場：新庄総合公園駐車場を利用（無料）

熊野古道なかへち美術館

（田辺市立美術館分館）
Kumanokodo Nakahechi Museum of Art
〒646-1402 和歌山県田辺市中辺路町近露891
tel. 0739-65-0390 fax. 0739-65-0393
www.city.tanabe.lg.jp/nakahechibijutsukan/

観覧料 | 400（320）円（ ）内は20名以上の団体料金
・学生及び18歳未満は無料
・11月16日〔土〕、11月17日〔日〕は、「関西文化の日」により無料

交通案内 |
○JR紀伊田辺駅から：龍神バス・明光バスで約1時間、「なかへち美術館前」下車、徒歩5分 ○JR新宮駅から：明光バスで約1時間20分、「なかへち美術館前」下車、徒歩5分 ○南紀白浜空港から：明光バスで約1時間50分、「なかへち美術館前」下車、徒歩5分 ○駐車場：熊野古道なかへち美術館前駐車場を利用（無料）



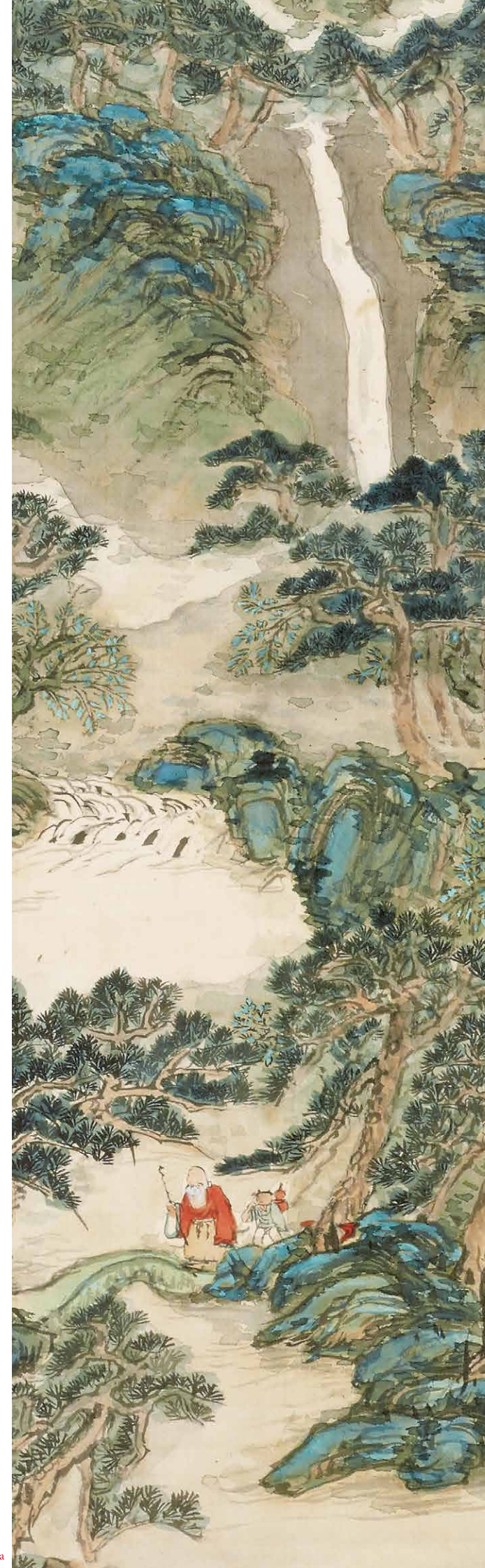
Senkyō: Longing for a Sacred Landscape

世界遺産
「紀伊山地の
霊場と参詣道」
登録20周年
記念特別展

仙
境
SENKYŌ

この南画の
あ聖地

2024年
10月5日〔土〕～11月24日〔日〕
休館日 毎週月曜日（但し10月14日、11月4日は開館、10月15日〔火〕、11月5日〔火〕）
主催 和歌山県立近代美術館 田辺市立美術館 助成 一般財団法人 地域創造
11月5日〔火〕に二部作品の展示替を行います。



南画とは、中国絵画に影響を受けて江戸時代に成立した、主に山水や花鳥を描く絵画です。中国の高官が余技としてたしなんだ文人画や、中国江南地方の温暖な風景を柔らかな筆づかいでとらえた南宗画を起源とするもので、江戸中期から人気を博したのち、明治期以降の美術界でも独自の展開をみせました。山と水に恵まれた和歌山は、しばしば中国古典に登場する「仙境」と重ねられ、江戸時代から文人たちの詩や絵画の主題となってきました。そして、近代においても、数多くの南画家が和歌山をめぐって作品を描いており、和歌山はいわば南画の「聖地」でした。

世界遺産登録20周年を記念する本展覧会は、和歌山県内の3会場で同時開催し、特に和歌山および京都・大阪を中心とする関西に注目して、近代日本において南画と向き合った画家による優品の数々を紹介します。この機会に和歌山の豊かな自然を見つめ直すとともに、それらに通じる南画の清らかな世界観をぜひご覧ください。

第1部

近代の南画、関西にあり

第1部では、江戸期の和歌山を代表する文人画家の紹介にはじまり、明治から戦中期までにおける、京都・大阪や和歌山を中心とする関西における近代南画の動向を探ります。

中国から文人画や南宗画がもたらされた江戸時代、和歌山は日本の文人画の祖ともいわれる祇園南海をはじめ、桑山玉洲、野呂介石ら「紀州三大文人画家」を輩出しました。はじめに、主に田辺市立美術館の文人画コレクションから、彼らの代表作を紹介します。

南画は明治期に全国的な広がりをみせますが、固定化したスタイルなどがしばしば批判的となりました。しかし、その頃の関西では京都府画学校や浪華画学校のほか、日本南画協会などを通じて、南画家たちが盛んに活動しました。大正期に入ると、近代西洋絵画の影響を受けて「新南画」が流行し、関西でも京都市立絵画専門学校で学んだ若手を中心に盛り上がりを見せます。一方、伝統を重んじる団体として、京都で日本南画院が結成されました。ここでは、学校教育や、美術団体および展覧会といった近代的な制度とも関連しながら、南画の世界に生じたダイナミズムを、ご紹介します。

第2部

近代の南画家、和歌山にあり

近代の南画界において、和歌山は多くの画家に影響を与え、独自の文化を育みました。第2部では、和歌山と深い関わりのある画家たちの多彩な作品を紹介します。

元武士や学者、商人などが、本業の傍ら余技として描いた明治期の南画は、江戸時代から続く文人的性格が認められます。和歌山は、こうした文人たちが理想とする「聖地」として位置付けられ、多くの画家が清遊しました。

大正期頃になると、和歌山でも伝統的な南画を継承しつつ、西洋絵画などをとり入れ、独自の表現を確立した画家たちが多くあらわれ、県内だけでなく中央の画壇でも活躍しました。

また、昭和期、特に戦中・戦後の混乱期には現代における「南画」の在り方が模索され、そうした中で描かれた和歌山の風景作品には、この地に対する画家たちの深い洞察が感じられます。

第3部

南画の風景、和歌山にあり

江戸時代の文人画家の野呂介石が「山水画家は須く南紀の山水を見よ。南紀を見ずして山水を語るなど喝破した」と大正から昭和期にかけて活躍した南画家の矢野橋村は述べています。江戸時代から日本の文人たちは中国の山水世界を求めて、和歌山をはじめ日本各地を旅し、現地での感興を詩や絵画に託しました。近代においても、文人たちが遊んだ「仙境」である和歌山にあこがれ、数多くの画家がこの地を訪れています。那智の雄大な滝や、吉野に連なる熊野の山々、熊野に臨む奇勝絶景の海岸などを目の当たりにした画家たちは、思い思いにその風景を描き残しました。

ここでは、南画を中心に、描かれた和歌山・熊野とそれに連なる海と山の風景を巡ります。

- | 同時期に開催の展覧会 |
- 特別展 | 月映 つきてるつちにつどいたるもの
10月5日[土]－11月24日[日]
 - 常設展 | コレクション名品選
10月5日[土]－12月22日[日]
会場 | 和歌山県立近代美術館
- ――
- 近世文人画の世界
10月5日[土]－11月24日[日]
会場 | 田辺市立美術館
- ――
- 特別展 | 聖地巡礼 第Ⅲ期 人・道・祈り
――紀伊路・伊勢路・大辺路をゆく――
10月12日[土]－11月24日[日]
会場 | 和歌山県立博物館
(和歌山県立近代美術館となり)

Modern Nanga in Wakayama and Kansai

Chapter 1 Modern Nanga in the Kansai Region

和歌山県立近代美術館にて展示

a 富岡鉄斎「寿山福海図」1899年 左中右 清荒神清澄寺 鉄斎美術館、b 山田介堂「青緑山水江山春蘭図」1917年 福井県立美術館

c 矢野橋村「湖山幽居」1915年 大阪中之島美術館、d 森谷南人子「南郷」1913年頃 笠岡市立竹喬美術館

e 池田桂仙「花卉菜蔬長巻」1916年 伊山文庫



Chapter 2 Modern Nanga Artists in Wakayama

田辺市立美術館にて展示

f 名草逸峰「富士観瀑図」1884年 広島県立美術館、g 富田溪仙「那智山瀑布図」1928年 個人蔵

h 井爪丹岳「鶴道晴雪図」1899年 個人蔵 [後期展示]、i 池田雲樵「桃源春色 槐山雨霽」1858年 左右 伊山文庫



Chapter 3 Nanga Landscapes in Wakayama

熊野古道なかへち美術館にて展示

j 小野竹喬「南海夏景」1918年 個人蔵 笠岡市立竹喬美術館寄託、k 土田孝徳「熊野の冬」1917年 茨城県近代美術館

l 山口八九子「月ヶ瀬梅溪」1921年頃 和歌山県立近代美術館、m 稲田米花「那智月夜見ノ滝之図」1933年 那智山青岸渡寺

n 富田溪仙「那智瀧」1935年 東京国立近代美術館

